

消費税増税の影響でDI値は現状・見通しともに悪化

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび2019年下期(7月～12月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前回調査(2019年1月～6月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しはどちらも悪化し、依然として先行きは厳しい状況が見込まれる結果となった。

全体DI値は、前回調査時に比べ、現状DI値は3.9ポイント、見通しDI値も1.0ポイントの悪化となった。業種別で現状DI値を見ると、製造業、卸売業、建設業、飲食業で悪化した。

今期調査では、昨年10月の消費税率引き上げによる影響が一部を除く多くの業種に波及したものと思われ、現状DI値は2期連続で悪化した。全体が悪化する一方、業種別に見ると小売業のうち電気製品小売業で駆け込み需要の好影響が見られ、サービス業では自動車整備業が好調であったことからDI値はともに改善した。

総務省が本年2月7日に発表した家計調査によると、昨年12月における2人以上の世帯の消費支出は前年同月比4.8%減であり、10月の消費税増税後から実質消費は3か月連続で減少している。増税による反動減の影響は時間の経過とともに緩和すると思われるが、依然として消費意識の低迷による売上・受注の停滞減少や人手不足、世界的に感染が拡大している新型コロナウイルスによる影響など懸念材料があり、見通しDI値が大幅に悪化した前回調査と同水準で推移していることから企業の見通しは慎重な状態であることが窺え、今後の見通しは悪化するものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 320社、回答率 29.1%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は19.4%(前回21.2%:前年同期23.0%)、「やや悪い」「悪い」は37.8%(前回35.7%:前年同期32.2%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 18.4$ (前回 $\Delta 14.5$:前年同期 $\Delta 9.2$)と前回より3.9ポイント、前年同期より9.2ポイント悪化となった。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 32.5$ (前回 $\Delta 21.6$:前年同期 $\Delta 15.5$)、卸売業DI値 $\Delta 60.0$ (前回 $\Delta 27.8$:前年同期25.0)、小売業DI値 $\Delta 48.9$ (前回 $\Delta 52.1$:前年同期 $\Delta 41.5$)、建設業は4.3(前回7.4:前年同期1.8)、飲食業DI値 $\Delta 31.3$ (前回 $\Delta 12.5$:前年同期0.0)、サービス業DI値8.9(前回 $\Delta 7.5$:前年同期 $\Delta 8.7$)となった。

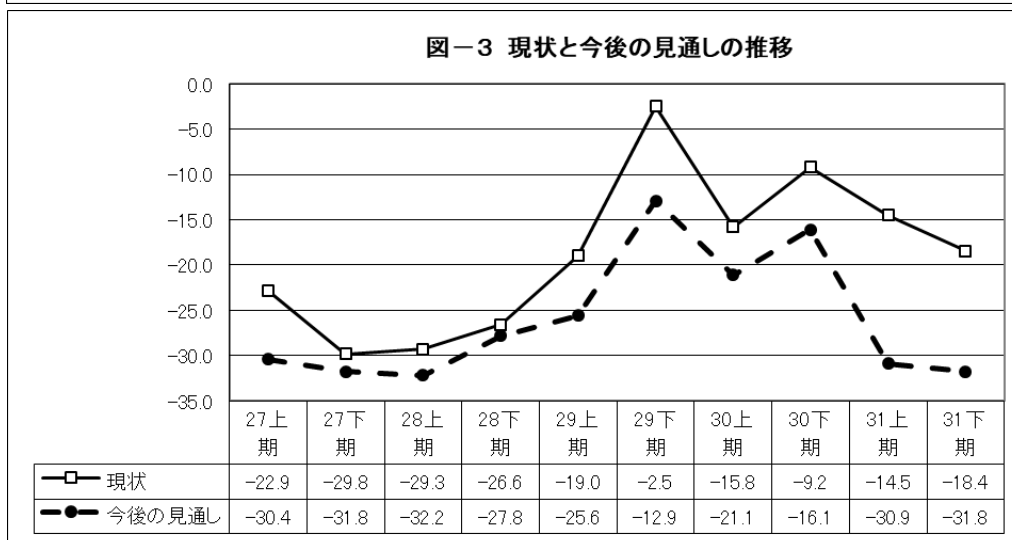
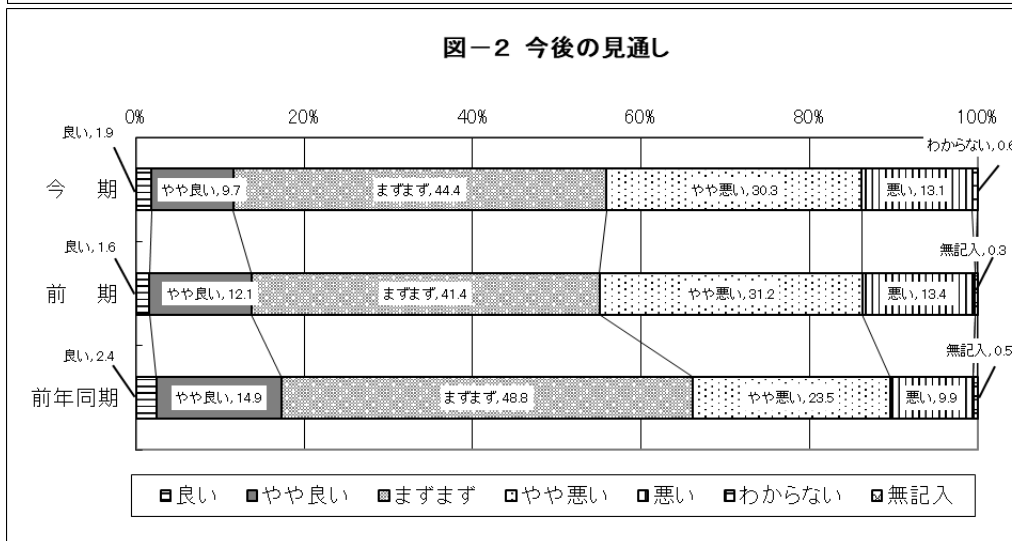
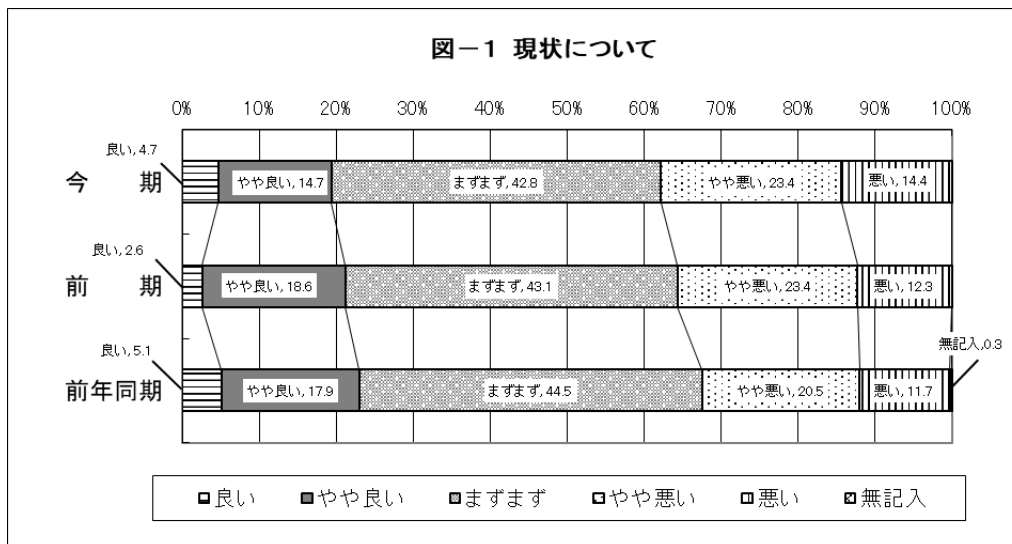
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は11.6%(前回13.7%:前年同期17.3%)、「やや悪い」「悪

い」は 43.4%（前回 44.6%：前年同期 33.4%）となった。

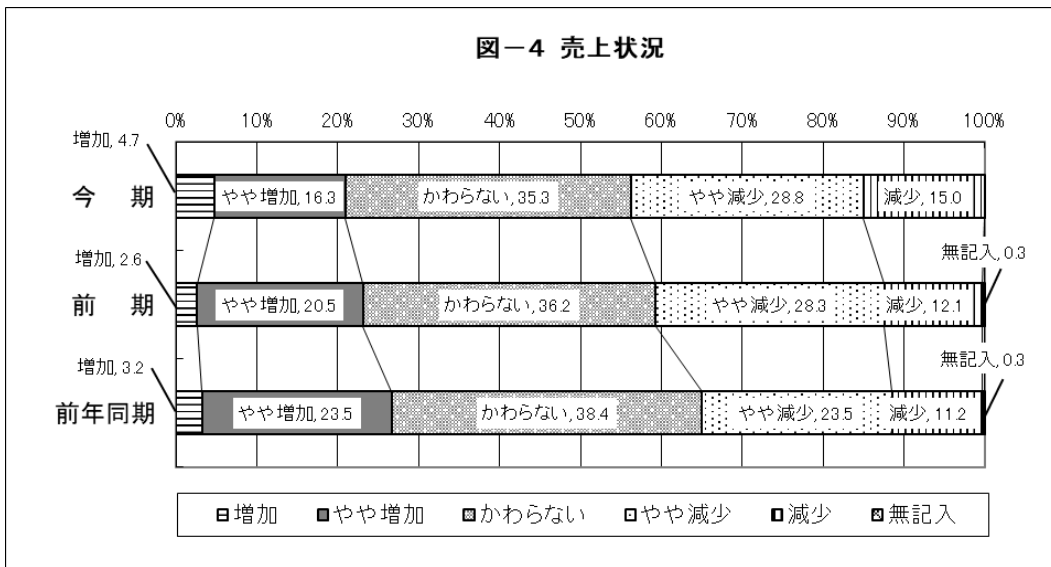
DI 値は、△31.8（前回△30.9：前年同期△16.1）と前回より 0.9 ポイント、前年同期より 15.7 ポイントの悪化となった。

業種別では、製造業 DI 値△47.6（前回△32.0：前年同期△17.4）、卸売業 DI 値△70.0（前回△33.3：前年同期△50.0）、小売業 DI 値△42.6（前回△58.3：前年同期△48.8）、建設業 DI 値△10.6（前回△16.6：前年同期 0.0）、飲食業 DI 値△12.5（前回△37.5：前年同期△33.4）、サービス業 DI 値△26.7（前回△28.3：前年同期△21.1）となった。



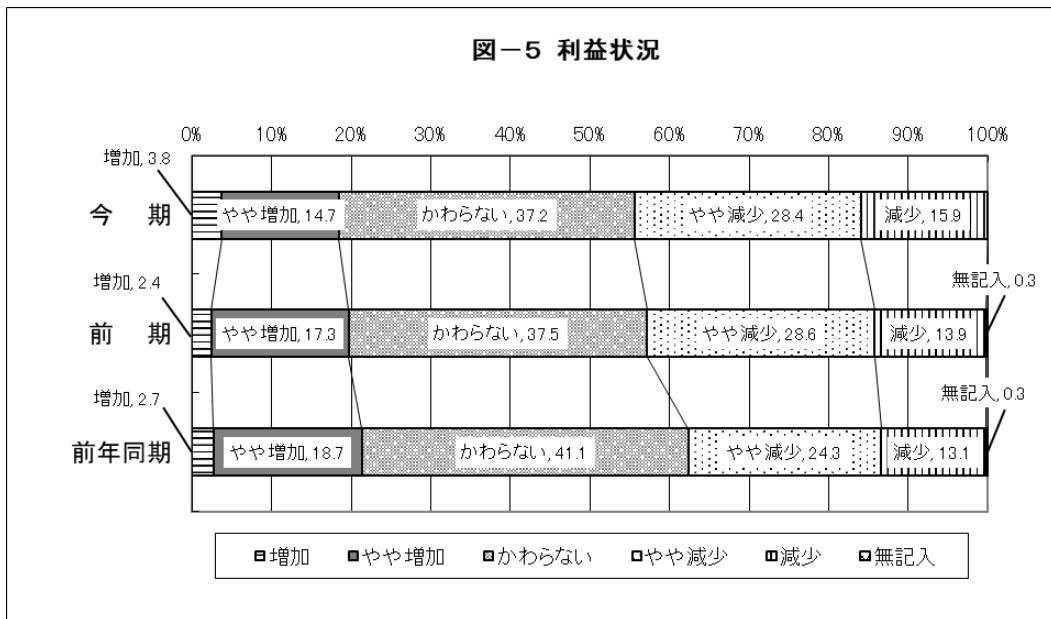
●売上状況について（図－4 参照）

「増加」「やや増加」は21.0%（前回23.1：前年同期26.7%）、「やや減少」「減少」は43.8%（前回40.4%：前年同期34.7%）となった。DI値は△22.8（前回△17.3：前年同期△8.0）と前回より5.5ポイント、前年同期より14.8ポイント悪化している。



●利益状況について（図－5 参照）

「増加」「やや増加」は18.5%（前回19.7%：前年同期21.4%）、「やや減少」「減少」は44.3%（前回42.5%：前年同期37.4%）となった。DI値は△25.8（前回△22.8：前年同期△16.0）と前回より3.0ポイント、前年同期より9.8ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位
業 種 別	製 造 業	売上・受注の停滞減少 (47.7)	人手不足 (29.1)	人材育成 (27.9)
	卸 売 業	売上・受注の停滞減少 (60.0)	競争の激化 (40.0)	設備店舗の狭小老朽化 (30.0)
	小 売 業	売上・受注の停滞減少 (61.7)	競争の激化 (29.8)	設備店舗の狭小老朽化 (25.5)
	建 設 業	人手不足 (64.2)	人材育成 (36.8)	売上・受注の停滞減少 (23.2)
	飲 食 業	設備店舗の狭小老朽化 (50.0)	人手不足 (31.3)	原材料高及び不足 人材育成 (25.0)
	サ ー ビ ス 業	売上・受注の停滞減少 (31.1)	設備店舗の狭小老朽化 (24.4)	人手不足 競争激化 (20.0)
	交 通 運 輸 業	人手不足 (100.0)	人材育成 (66.7)	財務・経理問題 (33.3)
	そ の 他	人手不足 売上・受注の停滞減少 (33.3)	設備店舗の狭小老朽化 (22.2)	人材育成 競争激化 (16.7)
総 合	売上・受注の停滞減少 (37.8)	人手不足 (37.2)	人材育成 (24.1)	
前 年 同 期	人手不足 (45.9)	売上・受注の停滞減少 (34.7)	人材育成 (30.7)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 15.7% (前回 25.0% : 前年同期 28.3%)、「やや悪い」「悪い」は 53.0% (前回 41.7% : 前年同期 35.9%) となった。DI 値は $\Delta 37.3$ (前回 $\Delta 16.7$: 前年同期 $\Delta 7.6$) と前回より 20.6 ポイント、前年同期より 29.7 ポイント悪化している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 9.8% (前回 20.9% : 前年同期 22.6%)、「やや悪い」「悪い」は 58.8% (前回 39.6% : 前年同期 34.0%) となった。DI 値は $\Delta 49.0$ (前回 $\Delta 18.7$: 前年同期 $\Delta 11.4$) と前回より 30.3 ポイント、前年同期より 37.6 ポイント悪化している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」15.7% (前期 27.1% : 前年同期 34.0%)、「やや減少」「減少」は 56.8% (前回 37.5% : 前年同期 32.1%) となった。DI 値は $\Delta 41.1$ (前回 $\Delta 10.4$: 前年同期 1.9) と前回より 30.7 ポイント、前年同期より 39.2 ポイント悪化している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 7.8% (前回 23.0% : 前年同期 20.8%)、「やや減少」「減少」は 53.0% (前回 41.7% : 前年同期 26.4%) となった。DI 値は $\Delta 45.2$ (前回 $\Delta 18.7$: 前年同期 $\Delta 5.6$) と前回と比べ 26.5 ポイント、前年同期より 39.6 ポイント悪化している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 15.7% (前回 29.2% : 前年同期 22.7%)、「やや減少」「減少」は 58.8% (前回 45.9% : 前年同期 41.5%) となった。DI 値は $\Delta 43.1$ (前回 $\Delta 16.7$: 前年同期 $\Delta 18.8$) と前回より 26.4 ポイント、前年同期より 24.3 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 059-382-3222

FAX : 059-383-7667